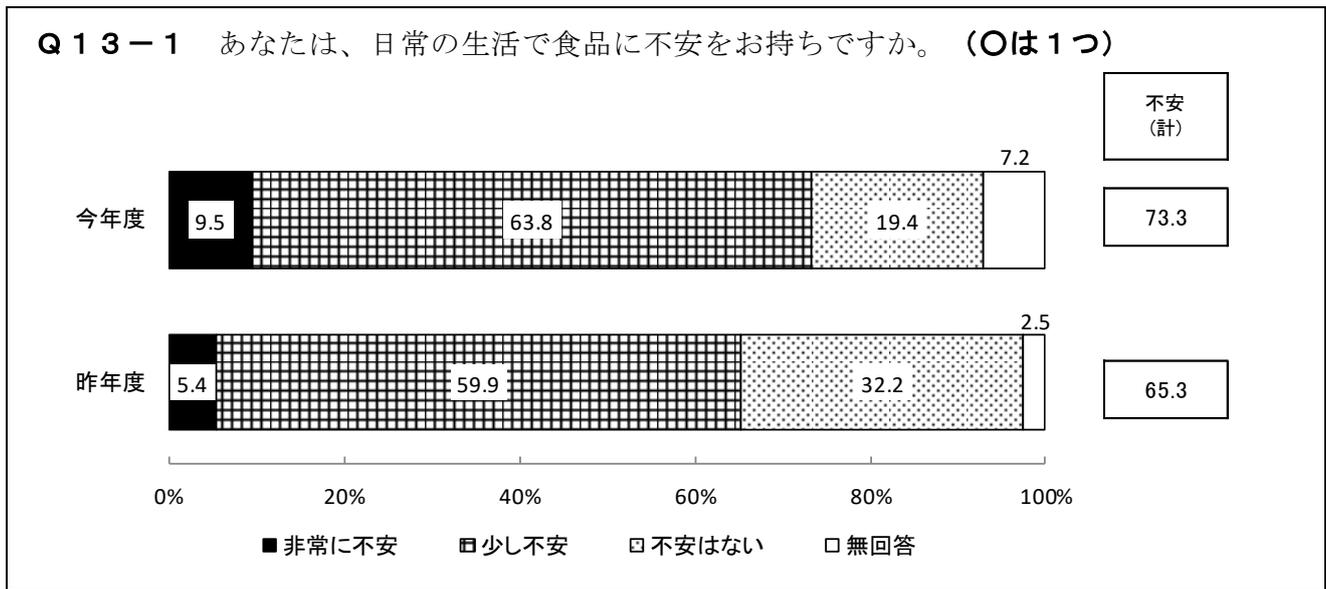


13. 食の安心・安全について

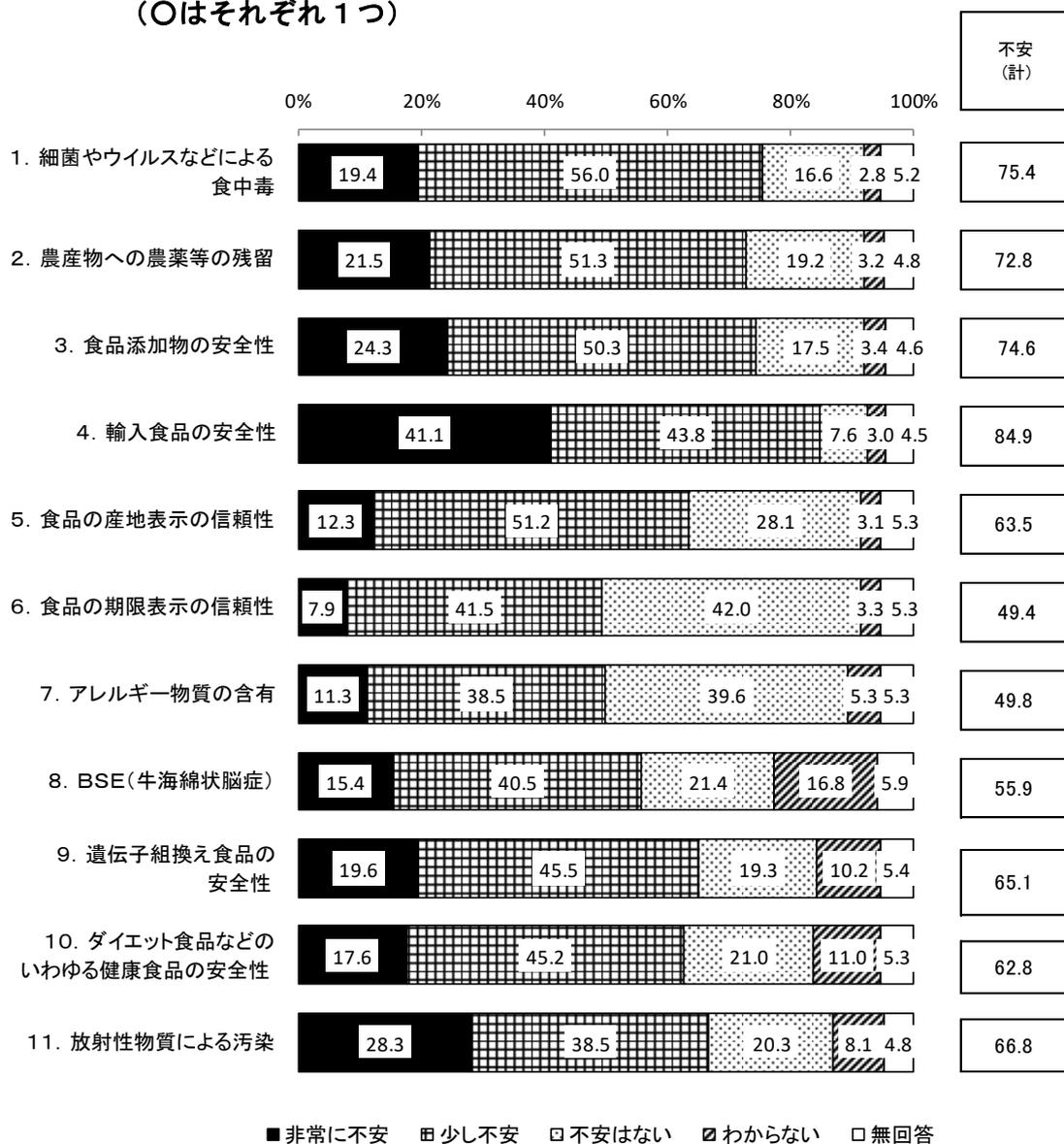
13-1. 食品に対する不安



食品に対する不安について、「非常に不安」と「少し不安」を合わせた『不安(計)』は73.3%と7割を超えている。昨年度と比較すると、『不安(計)』は8.0ポイント上昇している。

13-2. 食品について不安なこと

Q13-2 あなたは食品について、どのようなことに不安をお持ちですか。
(○はそれぞれ1つ)

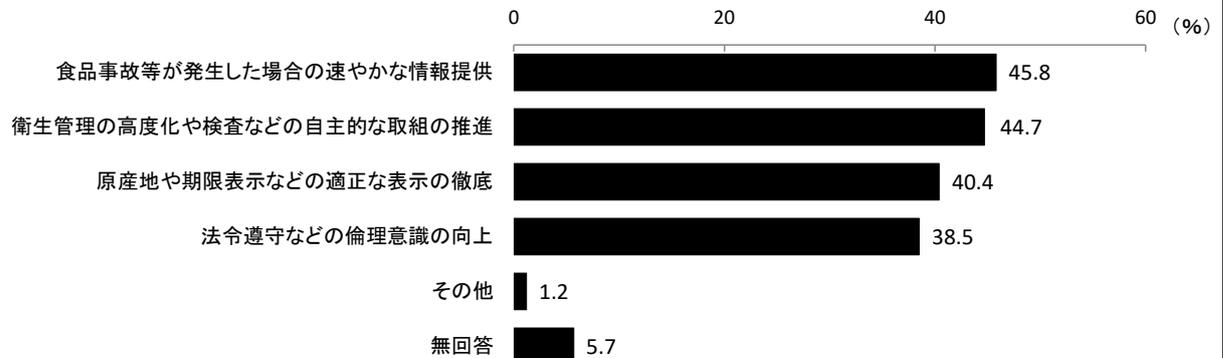


食品について不安なことについて、「非常に不安」と「少し不安」を合わせた『不安 (計)』の割合は、「4. 輸入食品の安全性」が84.9%、「1. 細菌やウイルスなどによる食中毒」が75.4%、「3. 食品添加物の安全性」が74.6%、「2. 農産物への農薬等の残留」が72.8%などで高くなっており、7割超から8割超となっている。

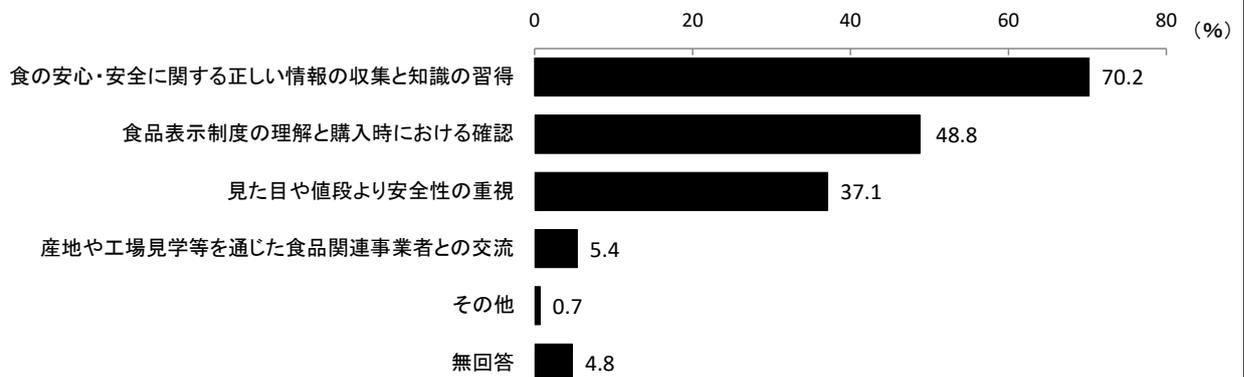
13-3. 県民が安全で安心な食生活を送るために必要な取組

Q13-3 あなたは、県民が安全で安心な食生活を送るために、「食品関連事業者（生産者、製造・加工者、販売者）」、「消費者」、「県」は、それぞれどのような取組が必要だと思いますか。

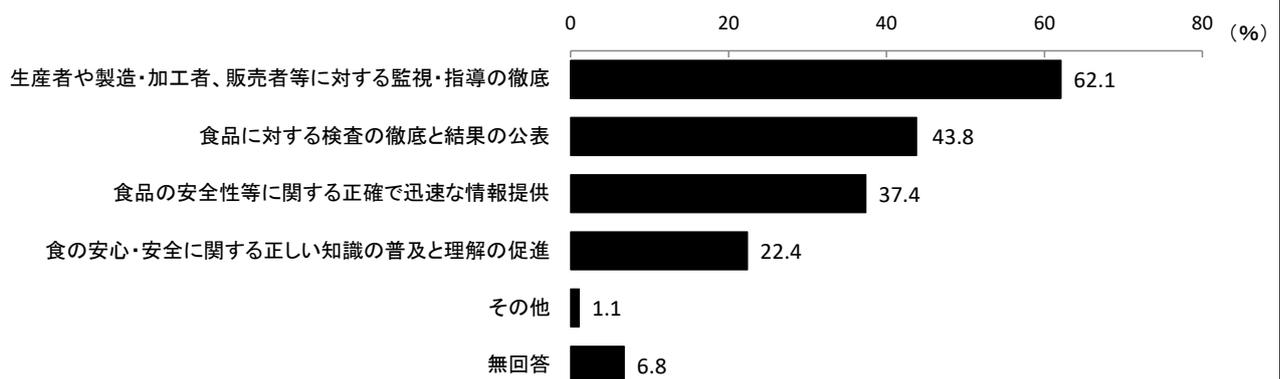
(1) 食品関連事業者に望む取組（○は2つまで）



(2) 消費者に必要な取組（○は2つまで）



(3) 県に望む取組（○は2つまで）



県民が安全で安心な食生活を送るために必要な取組について、「食品関連事業者に望む取組」は、「食品事故等が発生した場合の速やかな情報提供」が45.8%と最も高く、次いで「衛生管理の高度化や検査などの自主的な取組の推進」が44.7%の順となっている。

「消費者に必要な取組」は、「食の安心・安全に関する正しい情報の収集と知識の習得」が70.2%と最も高く、次いで「食品表示制度の理解と購入時における確認」が48.8%の順となっている。

「県に望む取組」は、「生産者や製造・加工者、販売者等に対する監視・指導の徹底」が62.1%と最も高く、次いで「食品に対する検査の徹底と結果の公表」が43.8%の順となっている。